

北海道高等学校

国語教育研究会

会報 vol.13

2026/1/8

第13回研究セミナーを終えて

北海道高等学校国語教育研究会会長
(北海道石狩翔陽高等学校長) 吉村 教賢

本研究会は、平成22年に本道で開催された「全国高等学校国語教育研究大会」をきっかけに、大会終了後も先生方のネットワークを形成し、本道の高等学校国語教育の充実・発展に資することを目的として平成24年に発足し、今年で14年目を迎えました。コロナ禍やICTが加速し研修スタイルがオンライン化したことなどにより、会員登録数、セミナー参加者数が減少傾向にありましたが、昨年度、今年度と徐々に回復してきており、8月のセミナーやその後の情報交換会でも開催の目的を達成することができました。

こうして登録者・参加者の回復もあったことから、今年度は、改めてセミナーの在り方について、①ワークショップ型を充実させること、②若手の教員の実践発表の場とすること、③情報交換やネットワークづくりの時間を設けることの3点を確認しました。

①については、発表者の発表時間をこれまでより短縮し、直後に「参加者交流」の時間を設け、発表者と参加者がテーマや課題について話し合える時間を設定することで、発表者からの一方的な実践発表ではなく、参加者とともに実践を振り返り深められるようにしました。②については、これまで経験豊富な方が講師を務め、参加者はその実践を参考に持ち帰るというスタイルが主流でしたが、地域や経験年数に関わらない積極的な実践発表の場となるよう、全道5支部から計画的に発表者を推薦してもらい、新たな人材発掘に努めることで、冬の「高教研」との違いを出すことにしました。③については、全道の公立高等学校の約3割の学校で、勤務校に国語の教員が一人しかいない

く、授業についての実践交流や相談をしたくてもできない状況を改善するためにも、①のような交流の時間を設定する工夫や、セミナー後の情報交換会についても参加しやすいものとなるよう改善に努めています。

高国研が、先生方の授業研究や交流の機会となるよう活動の充実に努めて参りますので、より多くの先生方のご参加をお待ちしております。



全体講義

市立札幌平岸高等学校 教諭 高松 洋司 氏

「国語の授業は論理的思考の基盤にどのような影響を与えてきたのか？」

—主に作文・小論文指導からの一考察—



- 今年度は、各講座の前に全ての参加者を対象にした「全体講義」の時間を設けました。今回は、毎年、参加者から人気の高松先生に講義をお願いし、国語科が担うべきテーマについて、これまでの先生のご経験と実践から意義深いお話を伺うことができました。
- 「論理的とは何か、説明してみてください」という高松先生からの問いかけによって、自分の中の固定観念が揺さぶられたように感じました。論理的思考の背景には言語文化が深く根ざしていることに気づかされ、改めて作文・小論文をはじめとする論理的文章指導と、言語文化指導の有機的な関係性を深く考えることができました。

研究セミナー各講座の様子 (写真の下のお印は、参加者からの感想の一部です)

講座A 札幌平岸高教諭 高松 洋司

外国語習得に繋がる古典学習～英語を使って古文・漢文の学習を深めてみよう!～



- 英語の文法や時制から古文の助動詞を考えるという内容。その他にも、分かりづらい、難しいなど、比較的生徒から嫌がられている古典分野をどのようにアプローチするかというお話を聞けて大変参考になりました。

講座B 札幌手稲高教諭 太田 幸夫

「論理国語」指導における、コミュニケーション力を援出した発問と言語活動の実践



- 「読むこと」の領域の指導の在り方について、様々な言語活動に取り組まれている実践を紹介いただき、言語活動を通し生徒のアウトプットの質を高めること、発問を工夫することなど今後の授業改善のヒントを得ることができました。

講座C 札幌藻岩高教諭 対馬 光揮

国語×英語 ～羅生門／百人一首～



- 教科横断型の授業づくりはとても新鮮で、自分でも作ってみたいと思いました。生徒も楽しめるのと同時に、さまざまな先生方の表現力も見ることができ、とても楽しかったです。

講座D 札幌静修高教諭 山西 克哉

授業構築のインストラクショナルデザイン



- 授業の目的や身につけさせたい資質・能力を根幹に、どうすべきか、どうあるべきかについてご自身の実践を踏まえてのお話が印象的でした。このように授業を設計していけば、日常の授業が自動的に意図的なものになっていくなあと思いました。

講座E 常呂高教諭 金川 佳美

「現代の国語」【書くこと】の授業開き単元を、勤務校の実態に合わせてカスタマイズして作成しよう!



- 高校3年間のみならず小・中・高という12年間を見据えた「書くこと」に係る系統的な指導の実践は大いに参考になりました。スモールステップを意識した身近なテーマを取り扱った「ワークシート」となり自校でも活用できる内容で参考になりました。

講座F 音更高教諭 柳沼 美央

命を救う「ことば」を育む国語教室～「やさしい日本語」への書き換え活動で育む言語能力～



- 生徒の実態に合わせて、町と連携し、授業内容を工夫されていることが素晴らしいと感じました。また、「やさしい言葉」で書くことは、誰にでも分かりやすい文章を書くために、身につける必

要があると再認識しました。地学協働の観点から見ても大変素晴らしい成果を得ていると思います。

講座G 立命館慶祥高教諭 有原 真理子

国語を俯瞰する～検索システムの構築～



- 単元ごとのデータベースの作成と検索システムの構築による「学びの宇宙」の可視化・具体化は、その本質を自分が理解するまで少し時間がかかりましたが、理解できればとてもおもしろく、意欲的な試みであると感じました。

講座H 札幌国際大准教授 大村 勅夫

文学の指導をより充実するために
～現代短歌と言語活動をつかってみよう～



- 現代短歌を題材にした「簡易歌会」の提案が行われ、受講者自身も評釈に挑戦。札幌西高校の生徒による短歌に参加者の関心も高まり、活発な意見交換が行われました。短歌の魅力を実感しながら、充実した時間を過ごしました。

講座I 道立教育研究所主査 越前谷 明子

次期学習指導要領を見据えた国語科で育成を目指す資質・能力



- 国語科教員は、授業を通して言語能力を育成することはもちろん、教科横断的な学びの場面や特別活動等教科外での教育活動を含めて言語能力を身に付けさせる視点をもつことが必要であることを再認識しました。領域ごとに育成する言語能力を意識して授業を構想するワークショップを行ったことで、身に付けたい力を意識した授業づくりのイメージを持つことができました。

令和8年度 第14回研究セミナー は

令和8年8月7日(金)開催予定 です!

多くの皆さんの参加をお待ちしています!